

○議長（小林哲雄）

一般質問を続けます。

1 番、菊川敬人議員、どうぞ。

○1 番（菊川敬人）

議席番号 1 番、菊川敬人です。

本日は、質問の許可をいただきました 2 項目目の未病を治すことと各種団体の連携について質問をいたします。

神奈川県では、健康寿命日本一を目指して、本年 1 月 8 日に県内全ての地域へ「未病を治すかながわ宣言」への賛同と参画を呼びかけました。この宣言は、4 人に 1 人が高齢者となる、今まで私たちが経験したことのない超高齢社会を乗り切る施策の一環であり、まさに知事主導で実施されることとなっています。また、町では、既に健康日本一を目指したさまざまな施策が掲げられており、未病を治す取り組みが始まっています。このことは、発病をストップするだけではなく、年々増え続ける医療、介護給付によるシステムの崩壊に歯どめをかける大きな手段と期待ができるわけであり、すなわち、未病に関する新たな施策と取り組み方をどこまで浸透させ、そして実行できるかが重要であると思います。

一方、町には多様な団体が存在する中、とりわけ未病に関する事業を着実に執行されている「ゆめクラブ開成」があります。さまざまな事業は、体を動かすことや会員相互の交流を図ることで調和のとれた未病の改善となっているように見受けられます。同様に、婦人会でも町イベントへの積極的な参画により地域に密着したおもてなしを実践するとともに、お互いの交流を深め、楽しみながら活動が続けておられます。こうした強力な団体が存在する中、未病を治す施策と、そのことにどのようにかわりを持っていかれるのか、そして誘導していかれるのかをお伺いします。

以上で 1 回目の質問といたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

菊川議員の質問にお答えします。

神奈川県は、超高齢社会を乗り切るために、平成 26 年 1 月 8 日に「未病を治すかながわ宣言」を発表いたしました。県は、健康寿命を延ばし、高齢になっても誰もが生き生きと健康に暮らし長生きで幸せだったという社会を実現するため、特定の疾患の予防、治療にとどまらず、心身の状態を整え改善する「未病を治す」取り組みを進めることとし、広く宣言への賛同と参画を今、呼びかけております。

未病を治す取り組みを進めるに当たり、神奈川県は二つの理念と三つの取り組みを上げております。最初に二つの理念についてですが、一つ目は、超高齢社会を幸せに生きるには未病を治すことが大切だという価値観を県民文化として育てること、二つ目は、そのために未病を治す考え方を皆で学び、県民一人一人はもとより、社会のあらゆる主体が協力し合って未病を治す取り組みを展開することとしております。また、

三つ目の取り組みとしては、一つ目は医食の同源の考え方でバランスのよい食生活を送る取り組み、二つ目は日常生活に運動やスポーツなど身体活動を取り入れる取り組み、三つ目は人と人の出会い、触れ合い、交流を進める社会参加の取り組みを推進することとしております。県は、食や運動、社会参加等の取り組みを進めるとともに、地域や企業などの組織と協力し、健康寿命の延伸を図り、県民や企業・団体、自治体などの幅広い参加で進めていこうとしております。

開成町では、平成25年度から第五次開成町総合計画がスタートしています。その中で、「健康を育み町民がいきいきと暮らせるまち」を一つの柱とし、健康づくりの推進を掲げております。町民が健康で充実した生活を送ることを目的として、平成24年度に開成町健康増進計画を策定し、町民の健康づくりを推進しております。地域ぐるみの健康づくりに取り組み、健康づくりに関する情報を正しく提供し、町民の健康意識の向上を図ることを目標に上げております。

また、平成26年度からは、日本一健康な町を目指して新たな取り組みとして、「1日1回は血圧をはかろう」「あと10分間体を動かすことから始めるプラステン」をスローガンに「健康づくりでポイントラリー」等の事業を実施しております。これは、今後、超高齢社会が進む中、介護を必要とせず自立した生活ができる生存期間を延ばすことである健康寿命の延伸を重要課題と捉え、健康増進計画の効果的な推進を図り、町民一人一人の健康意識を高め、高血圧をはじめとする生活習慣病の予防等に取り組んでいきます。3年計画で取り組む予定でありますが、1年目は、できるだけ多くの町民に対して普及啓発を実施します。身近な地域での開催や、各団体に対して普及啓発を実施していきます。

開成町では、今まで進めてきた健康づくりの取り組みそのものが、未病を治す取り組みそのものであると捉えております。町としては、従来の健康づくり事業を引き続き推進していくとともに、県が進めている未病という新たな切り口について、県の施策と連携しながら健康づくりをより充実させ、効果的に進めていきたいと考えております。

次に、未病を治すことに関する町内の各団体とのかかわりについてお答えをします。開成町では、自治会や議員ご指摘のゆめクラブ開成、言いかえますと開成町老人クラブ連合会、婦人会、健康普及員、食生活改善推進協議会等の各団体と連携をし、継続的に地域ぐるみで健康づくりに取り組んでおります。平成25年度には、開成町老人クラブ連合会をはじめ町内の11地区の老人クラブにおいて、神奈川県老人クラブ連合会事業として新規に健康・福祉祭りやシルバー健康サークルに組み込み、認知症予防や栄養の知識の習得、健康体操やニュースポーツのカーレットの体験等を行いました。町保健師やボランティアの方が講師となり、健康づくりや生きがいづくりに効果を上げております。今後も、町としては老人クラブに対して開成町社会福祉協議会と連携しながら活動の支援を行うとともに、町保健師の職員派遣等を行い、健康づくりや介護予防に取り組んでいきたいと思っております。

また、婦人会は会員相互の親睦活動や他町団体との交流、また地域に根差したボラ

ンティア活動等、社会参加を実践している団体であります。あじさい祭や開成納涼祭、阿波おどり、スポレク、開成文化祭、ひなまつりなどに多大なご協力をいただいているほか、交通安全指導や託児協力など女性の視点を生かした活動を実施しております。町では、多方面に活躍している婦人会に対しても、町の健康づくり事業を推進するため健康づくりに関する知識の普及啓発に取り組んでいきます。

いずれの団体の活動も県の提唱する未病に対する三つの取り組みの中の社会参加そのものであり、人と人との出会い、触れ合いが心身の健康維持の基となり、未病を治す取り組みにつながっています。今後とも、各団体と連携し活動を充実させ、未病を治す神奈川宣言の浸透に努めてまいります。

以上であります。

○議長（小林哲雄）

菊川議員。

○1番（菊川敬人）

ただいま答弁をいただきました。答弁に沿った形で、初めは質問をしたいと思えます。

改めて質問させていただきますが、午前中も出生率の質問が出ておりました。私も、ソフト面について改めて質問していきたいと思えます。町長は以前から日本一健康な町にしたいということで、開成町としては、いわゆる未病に関する先駆けの取り組みをされているというふうに私も感じております。そういった中で質問させていただくのですが、先日、5月26日、厚労省の研究班が健康寿命についてまとめておりました、それを発表いたしました。これは2010年時点のデータであるのですが、健康寿命が最も長い男女は浜松市でありまして、男性が72.98歳、女性が75.94歳となっています。同じく2010年に公表されております平均寿命は、男性が79.55歳で女性が86.3歳というふうになっています。

先ほど述べましたが、県知事は未病を治すかながわ宣言をされて賛同と参画を呼びかけております。町としても当然、この件については、先ほど申しましたように、日本一健康な町にしたいということで積極的な取り組みをされることと思えます。未病を治す取り組みを進めるに当たりまして、県が宣言した先ほどの答弁の中で二つの理念と三つの取り組みがありました。これに、町としては、どのような形で県と連携をして進めていくのかを、まず初めに伺いたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

知事から県西地域を未病で活性化したいという話が初めにあったとき、私たち、私だけではないですけれども、首長さん皆さん、未病って何だということで、なかなか理解するのが難しかった部分があります。我々も何回も知事から未病に対しての話、いろいろな考え方を聞くうちに、やっと、ある程度、未病というのはこういうものだなというのがわかるようになってきました。ですから、一般の町民の皆さんには、ま

だまだ未病という言葉自体の理解と浸透というのはできていないと思っています。我々も、まだ町民の皆さんにそこまで説明できていない部分があると今は思うので、この部分において、未病というものを町民の皆さんにも、どういうものかというのをきちんと説明をしていかななくてはいけないのかなと。

今、簡単に言わせていただきますと、字のとおりで、病気にまだなっていない未病。知事がよく言われるように、健康と病気という二つの概念ではなくて、その間に、グラデーションではないですけれども、健康から病気に行くまでの途中の過程があるだろうと。それを未病という言い方で知事は言うておりますけれども、どこの部分においてが未病かというのは、実は、わからないのです。例えば、病気になって病院に行って薬をもらって治ったとする。病院から見れば、それは治ったと言うかもしれませんが、行った町民、患者さんから見れば、薬を飲んでいれば、それは治っていないのかもしれない。どこの部分において病気なのか、健康なのか、未病なのかという部分がわからない部分があります。

その辺を、どうやってこれから皆さんに知っていただいて、未病をキーワードに。ただ単に健康を伸ばしていくということだけではなくて、神奈川県は、未病をキーワードに県西地域の豊かな自然、温泉や山、川、海、いろいろなものがあります。未病というのは人が治すだけではなくて、自然の癒しを含めて、そういうものも未病という形で捉えて体を治したり心を治したりするのではないかというような捉え方をしていますので、大きな範囲において、未病をキーワードに、健康、また観光、人口流入、交流人口を増やしたいということもありますけれども、瀬戸屋敷周辺に未病を絡めて未病の癒しセンター、県が提唱しているものについて、補助金が取れるものは取っていききたいと思いながら進めていききたいと思っています。

○議長（小林哲雄）

菊川議員。

○1番（菊川敬人）

今、私が言いたいことを町長に言っていただきまして、未病については、病気になるまで、いわゆるはざまなわけです。それについて、ちょっと確認と質問をしたいと思います。

今後、未病を治すことについて、行政と町民は一人一人が一体となって取り組む一つの課題ではないかなというふうに考えます。まず、未病について、なかなか自分自身で未病だとか、病気になればわかりますけれども、未病だということをなかなか実感できない。先ほど町長が言われましたとおり、なかなか自分では実感できない部分というのがあるのです。このことは、やはり町民一人一人の方によく周知していただいて、未病に対するPR、説明等を深くしていただきたいなというふうに感じております。

私たちは、病気であれば、すなわち健康だというふうな考え方を持っております。日々の生活で健康から発病までの間については、余り気にはしない、気にとめていないというところがあると思います。実は、この部分に気をつけることによって病気を

防げるのではないかというふうに思います。健康寿命を延ばすためには、生活習慣病と大きなかかわりがあるのではないかと思います。また、未病の日々の健康管理をすることで生活習慣病にならないという大きなポイントがあると思います。

今、神奈川県では、知事が全力で取り組んでおられる未病を治すというテーマについて、パソコンやスマートフォンで自分の未病の状態をチェックできるチェックシートを作成しています。これは20項目ぐらいあるのですが、その中で該当するものをチェックしていけば、今、自分はどのような状態にあるのかということがわかります。先ほど、町長は自分の未病はわからないと言われました。そういうチェックシートがあります。町長は、そういうチェックシートをされたことがありますか。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

チェックシートは、やっていません。

知事も、よく未病の言葉の中で、最先端のICTを活用した未病のあり方、見える化ができるという話を私も実は聞いています。これから、今ある開成町も含めて県西地域の豊かな自然を生かすこととともに、最先端のICTを使って、今、どういうふうに自分の体の状況があるかというのを見える化する事業も進めたいという話をしています。

この間、県に対してプレゼンの機会をいただきまして、残念ながら町長のプレゼンが下手なために予算は取れなかったのですが、私は、そのときに開成町が出した今年度の健康の見える化の事業の一つ、水辺スポーツ公園を拠点にして見える化と、サイクリングコースがありますので自転車を利用した活用方法。もう一つは、湘南ベルマーレの関係もありまして、そこにコンディショニングセンター、一人一人の体に合ったトレーニング方法をきちんと勧めて一人一人の対処方法を指導していくコンディショニングセンターをつくりたいという提案を、26年度、させてもらったのですが、その補助金は取れませんでしたけれども、実は、これに関しては、取れませんでしたけれども、できるだけ、ほかの補助金も活用しながら進めていきたいと思っています。

昨日、知事が、実は、小田原で若手経営者の皆さんに対して未病に対しての講演を行いました。私もそこへ行ってきたのですが、我々行政だけではなくて、知事自ら一般の人たち、特に若い世代の人たちにも、未病というものに対して直接知事の口から話をしていました。それを聞いていたときに、やはり知事が直接話をすると理解されやすいのかなと。我々が幾ら説明したり、また、そのとき県庁の職員もたくさんおられましたけれども、県の職員が幾ら説明してもなかなか理解されないけれども、知事が説明すると説得力があるよねという、県職の人も言っていましたけれども。できるだけ我々も、町長も、これから自ら町民の皆さんのところに出て行って、未病に対して話をさせていただいて理解をしていただけるようにしていきます。

その中で、今、ICTの活用方法についても、これから、できるだけ補助金を活用

しながら取っていききたいなと思っています。町民の皆さん一人一人が、自分がどういう状況にあるか、未病のどの位置にあるかというのは、実は、自分が知ることがすごく大事。その中で先ほど予防という話が出ましたけれども、予防というと、健康と病気の二つの対極の中で病気にならないために予防という言葉がある。未病という概念をつなげていくと、予防というのがないのです、実は。どの時点の未病かと。健康に近いほうの未病なのか、病気に近いほうの未病なのか、いろいろな場所が実は未病にはあります。そのときに、どういう対処をしていくかというのがすごく大事になってくる。そのときにＩＣＴを活用して、今の自分の健康状況、ただの体だけではなくて精神的なものも含まれますので、すごく難しいのですけれども、そういうものをきちりデータ化することによって未病を治していくということにつなげていけるということです、そのような形に町としても進めていきたいと思っています。

○議長（小林哲雄）

菊川議員。

○１番（菊川敬人）

未病に関しては、県知事でなくても、開成町長が町民にお話ししていただければ、それで十分、私は説得力があるというふうに思います。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

未病については、最近、テレビとか新聞なんかで非常に話題となってきています。未病について考え知ること、習慣病、その他の病気に事前に対応できる可能性は十分含んでいると思います。自覚症状はあるが特に治療をしていないとか、何となく体がだるい、だけど病気ではない。つまり、病気の予備軍なのかもしれません。

生活習慣病を一例としますと、継続的に糖分が蓄積され、内臓にダメージを与えたり長い月日をかけて血栓になるなど、体が徐々にむしばまれていって、ある日突然、病気が発生するというものであると思います。健康管理は、本人が注意を払い日々の生活の中で行うものだと思います。決して行政任せというわけではないと思います。しかしながら、我々町民としては、やはり、そのきっかけを少しでもつくっていただきたいという気持ちが非常に強いわけであります。

県では、未病について理解してもらうために、その判断をする目安として先ほど言いましたチェックシートをつくっておるわけでありますが、町長の考えとして、町民に対して、未病であるか否かの判断をする基準をどの辺に設けたらいいのか、どういう形で判断してもらうかを。自分の状況が判断できないとなかなか難しいかなと思いますので、未病に対する施策に参画してもらうためには、少しでも多くの方に説明して、それで自分の状況を判断してもらわなくてはいけないと思うのですけれども、その判断基準は何か考えておられますか。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

今、菊川議員が言われる健康の体の状態だけのチェックシートの話だと思うのです

けれども、そうではなくて、未病というのはトータルな形で。もちろん健康の一つ一つのチェックはあるのですけれども、それ以外に、先ほどの話の三つの中に医食同源という、食べ物、開成町の中の殖産、無農薬のお米とか野菜をどんどん増やしていった、それによって健康であることも大事だろうし、また、家から外に出て人と触れ合って、その交流のもとに健康でいるという。いろいろなバランスの中で、トータルの中で未病を治していくということになるので、一つの健康の体のバロメータ、数値だけではなくて、そういう中で判断をしていく、広げていくという形であるのかなと私は思っていますので。一つの部分においては大事な部分があるのですけれども、それだけではなくて、トータルな部分によって総合的に開成町の人が健康寿命が延びるように未病を治すということで進めていきたいと考えています。

○議長（小林哲雄）

菊川議員。

○1番（菊川敬人）

私も、そうだと思います。先ほど言いましたように、未病と生活習慣病はお互いに相関関係があるかなというふうに考えます。生活習慣病で亡くなる日本人の死因の割合は6割ぐらいとも言われております。その中には、がんや心臓病、脳卒中、糖尿病、さまざまあるわけではありますが、特に、我々、高齢になりますと、その多くが高血圧であったり高脂血症を持っておるわけではありますが、将来的に重大な、これは健康障害へとつながる可能性があります。健康に日々の生活の中で少しでも気を使うことで、生活習慣病から身を守ることができると思います。私たちは、生活習慣病に限らず、未病について敏感である必要があります。同様に、県でも特定の疾患の予防、治療のほか、先ほど町長が言われましたように心身の状態を整える改善についても言及しております。

先ほども同僚議員の質問の中で、ひとり暮らしということがありました。今、ひとり暮らしをする65歳以上の高齢者が非常に増えています。平成10年度の国勢調査では約500万人とも言われておまして、35年度にはさらに35%増えるだろうと予測しています。その数は、760万人にもなるということが言われています。

開成町でも、高齢化が年々進んできております。特に、高齢者の方が本気で未病について考えることで、発病につながることを防ぐ効果は大きいと思います。そのために、町では敬老会や婦人会とは、より密接な関係を保つべきであると思います。例えば、各地域の老人クラブの会員を見ますと、4月1日現在で1,011人でありました。年間を通じ、スポーツ大会、パークゴルフ、福祉祭りなど、さまざまな行事をされています。今後は、この活動と一緒に未病を治すことを中心としたテーマを取り入れて各団体をお願いしていかれると、未病を治すことが浸透するのではないかなと思います。団体への依頼と連携が非常に重要だと思いますが、それぞれの所管の窓口が違ふと思いますけれども、各種団体に対応する窓口は、私は、できれば一本にしたほうがいいと思いますが、町として今後は各種団体との連携の窓口はどういうふうにするおつもりでしょうか。

○議長（小林哲雄）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

ただいまの質問にお答えいたします。

今の議員の質問は、未病に対する取り組みをするときに、関連団体等がどのように連携していくのかというようなことも含まれていると思いますけれども、老人クラブのお話につきましては、昨年度から、特に神奈川県の実委託事業も含めて、健康づくり、生きがいづくりという部分に非常に強く出ております。昨年度の事例でいきますと、それをやるに当たって自治会の協力も得たいということが老人クラブ老連から話がありましたので、自治会長会議等でも私のほうで話をさせていただきました。私のほうで、今、言える部分では、そういう部分の未病の取り組みをこれから進めていこうという中では、横の連絡、各課の横の連絡も含めて団体間の連絡をして、それぞれの団体の活動が未病に向かって進めるようにかかわっていきたいと考えます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

町としては政策決定会議というものがありますので、政策決定会議で決まったことはその後課長会議の中で話をさせていただいておりますので、一つの担当課が未病ということではなく、そういった会議の中で、政策会議で決まったことは、またその下におろすという形で進めていきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

菊川議員。

○1番（菊川敬人）

あと幾つか聞きたい部分があるのですが、時間がありませんので中途半端になってしまいますから、これで質問を終わるのですが、いずれにしても未病を治すということは、先ほど冒頭、言いましたように、健康保険とか介護給付費が非常に抑制されてくる、そういう相乗効果があるかなと思いますので、ぜひとも我々町民も行政と一体になって未病を治すということに対する努力をしていきたいと思っておりますので、今後とも、緻密なというか、数多く町民の方に未病に対する説明と、あと施策についての説明をしていただきたいと思います。

それと、もう一つ、それに対する、かわった施策が何かあるようでしたら、また議会のほうにもお示し願いたいなというふうに考えております。

以上で終わります。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩といたします。再開を15時20分といたします。

午後3時03分